

当園ではこの度、令和元年度の幼稚園学校評価として、保護者アンケート及び、教職員自己評価・学校関係者評価を実施いたしました。教職員自己評価では、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直す非常にいい機会となりました。

今年度の保護者アンケートの結果及び、教職員自己評価の結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

## I. 教育目標

<p><b>目指す園児像</b></p> <p>心身ともに明るく健康な子ども 何事にも興味を持ち、創造性豊かな子ども 誰とでも遊べる思いやりのある子ども 正しい考えで行動できる子ども</p> <p><b>具体的な教育目標</b></p> <p>①基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を培います。 ②人を尊重し、助け合い、すすんで他の人の幸せのために奉仕する生き方を学びます。 ③自然などと親しみ、驚きや発見などの感動を大切に、豊かな心情や思考力の芽生えを培います。 ④言葉を交わす楽しさを知り、喜んで話したり聞いたりする態度を養います。 ⑤さまざまな体験を通して、豊かな感性を育て、創造性に富んだ生活を営む基礎を培います。</p>
--

## II. 今年度の重点目標

<p>昨年度の学校評価で、抽出された「課題」の解決をするとともに、関目聖マリア幼稚園をより良い幼稚園にしてい く為に、現状考えられる課題を年初に抽出し、それらの課題の達成に向けて年間で計画を立てて取り組んでいく。</p>
--

## III. 評価項目と取組み状況

評価項目	取組み内容	取組み状況
1 ＜幼稚園＞ （教育内容） 子どものあいさつ	教職員が手本となり、あいさつから生活習慣の基本を伝え、自発性を育む取組みを行う。	B 学期初めに目指したい生活の姿を共通理解し、職員から基本的な生活習慣の定着を図るためにあいさつやお祈りを職員が自発的に積極的に行い、手本を示した。自発性を促す意識は高まったと感じるが、クラス毎の目標設定としたため、できるようになったことなどの達成度を把握することができなかったため、視覚化する等によってより課題を明確にし、園児と保育者の意欲が高まる工夫を取り入れる。
2 ＜幼稚園＞ （教育内容） 教育理念の発信	保護者へ行事参加を促すとともに、参加困難な保護者に向けた伝達手段を工夫していく。	B 行事のねらいや意味合い、目的としていることを学年だよりや手紙だけでなく動画撮影し、ビデオで見ってもらう機会を作った。宗教面での取組については月ごとの学年だよりに記載し、意味や過程を知らせていくように取り組んだ。今後はレーザーキッズを使用して日々の子どもの姿や行事の様子を伝えていく事を検討する。
3 ＜幼稚園＞ （教職員の質の向上） 保育レベル向上	互いの保育をフィードバックしあうことで学びを深め、より子ども達の目線に沿った保育を実施していく	A 研修で学んだ知識を他の職員と分かち合い伝え合うことと、学んできたスキルをどのように実践に活かすのかを職員会議で発表するという事を計画していた。各個人間のやり取りで情報共有したり、朝朝礼で研修内容の報告をするなどで知らせることはしていたが、園の仕組みとして詳細を共有することはできていなかった。限られた時間の中で必要なことを対象者に伝えるための方法を検討する。

# 令和元年度 学校評価結果報告書

学校法人 大阪聖マリア学園  
関目聖マリア幼稚園

評価項目		取組み内容	取組み状況	
4	<幼稚園> (教職員の質の向上) 保護者との連携	子どもたちの家庭での様子や生活の基本リズムが、いかに大切であるかを保護者へ繰り返し伝えていく。	B	ロコモ体操、チャレンジカードを継続的に取り組んでいくことと、聞く姿勢や食事時の姿勢について保護者に伝え、家庭内で協力してもらえる様に促した。さらにお迎え時や面談時に一人ひとり課題を伝えた。伝え方をどうするかという問題と、長期計画中にチャレンジカードの達成度が上がるように、個々の子どもに宿題を出して、家庭内での取組みを更に促す。
5	<幼稚園> (危機管理体制の強化) 安全管理体制の強化	訓練のねらいや重要性について丁寧に伝え、準備や役割分担について振り返りを行う。	B	訓練前にクラスでどのように動くが良いか考える時間を作った。ねらいを理解した上で改善点を模索して訓練を実施する。避難時の問題点を洗い出し、それぞれの対策を考える。安全と安心をハード(マニュアル整備・運用のルール)面とソフト(職員の意識向上・教育)面の両方から取組み、向上させていく。
6	<こひつじ> (保育内容の充実) 他学年同士での交流	育成を念頭においた指導を行っていく中で、勤続の長い職員も自身の振舞いを再確認する。	B	行事や保育活動において、準備の段階で担当以外の者にも流れを確認したり終わってからも意見を聞いてより良い方法を職員全員で考える場を持てた。その中で過去の経験を生かして引継ぎを行う事で反省なども反映されているように思う。後輩の指導に関して遠慮してしまう事がある。子どもにとって大事な事なので「何を伝えるか」よりも「どう伝えるか」を考えて指導にあたる。
7	<こひつじ> (教職員体制の充実) 計画の立案と実行	リーダーとサブが引き続き互いに協力し、子どもたちの成長に合った保育を実施していく。	A	学年リーダーが規律を正し、リーダーとサブリーダーそれぞれの動きを再確認することを取組計画とし、学年のリーダー同士が集って行事や保育の進め方など、話し合いを進めることができた。子どもに合っていると思った活動は応用させることを視野に入れ、よりよいものを目指していく。
8	<こひつじ> (保護者対応) 保護者との連携	保護者の相談内容に真摯に向き合い、丁寧に引継ぐことで保護者の抱える不安の解消につなげていく。	B	登降園時を利用しての保護者とのコミュニケーションに関しては全員が意識できていたように思う。子どもの成長を共に喜んだり、次の成長につなげることができたが、先生や保護者によっては必要以上に時間をかけすぎることもあった。伝達方法としては実際に対面するというだけでなく、掲示物や連絡ノートなどがあるので、状況や話の内容によって使い分ける。

### 【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	<幼稚園> (教育内容)	なぜあいさつが大事なのかを教職員全体で共通理解し、子ども達に伝えていく。
2		園の理念や宗教的思想を園長先生からの朝礼のお話でクラスで具体的に話したり、子ども達へ発信していく。
3	<幼稚園> (教職員の質の向上)	自分のタレントを生かした保育の質の向上をつなげるため、一人ひとりが責任を持って行動する仕組みを作り、スキルアップを図る。
4		園の様子をより保護者に知ってもらうために動画配信や各クラス担任が定期的にクラスの様子や計画を配信する。
5	<幼稚園> (保育内容)	生活の一部を一緒に過ごせるような縦割り保育を取り入れ、こひつじとの交流も検討する。
6	<こひつじ> (教職員体制の充実)	保育の質や方法を各保育士任せにするのではなく、根幹となるものを学年ごとに設定する。
7	<こひつじ> (安全管理体制の強化)	感染症対策の仕方やかかった時の対応方法などを話し合い、職員間で共通理解していく。
8		園外活動時の事前の安全確認と職員間での情報共有、職員体制の役割分担を実施する。
9	<こひつじ> (保護者支援)	保護者の相談内容に真摯に向き合い、丁寧に引継ぐことで保護者の抱える不安の解消につなげていく。
10	<こひつじ> (保育の質の向上)	保育や担当役割を策定し、意見を前向きに捉えて実行できる仕組みを作る。

V. 学校関係者の評価

R1210  
自己評価・保護者アンケートを基に関係者評価を実施

○保護者の方々が挨拶されると園児も同時に挨拶されます。非常に良い気持ちなので、今後も引き続きできればと思います。  
○自転車置き場で園児が走り回っているのを見受けられますので気を付けるようにお願い致します。

○これからも取り組むべき課題については頑張っていたきたいと思います。  
○課題の中にもありましたように、挨拶の大切さを子ども達に伝えて欲しいと思います。小学校の低学年生は挨拶してくれるのですが、中・高年生になると挨拶してくれる子どもが少なくなるように思います。  
○学園生活では何事も園と家庭での教育が必要と思います。保護者と園との関係がこれからのこどもの教育、成長につながると思います。

○自己評価についての取組・達成状況は概ね適切であると考えられる。  
○<幼稚園>の(教職員の質の向上)や<こひつじ>の(教職員体制の充実)では、職員間のコミュニケーションがこまめに行われることで、お互いに学び合う姿が絵画や造形の研修時に見られ、職場の人間関係の雰囲気良くなったように感じられた。  
○保育者不足は全国的な問題になっているが、就職したい園となっているかを検討し、具体的な対応策を実施してはどうか。

○常に保護者と向かい合っの保育・教育を展開、取組には共感を覚え、熱心に活動されていると感じました。  
○保護者の中に「マリア幼稚園は子どもの気持ちを汲み取ってのびのびと保育されている」という印象的な言葉を頂き、嬉しい気持ちと実の引き締まる思いがしました。